

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院分院血液内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族等の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

2024年6月1日～2025年6月30日の間に、虎の門病院分院血液内科に入院・通院し、血液疾患に対し初回の臍帯血移植を受けられた方のうち、移植後に valemestostat（商品名；エザルミア）を処方された T 細胞性腫瘍の方

【研究課題名】

高リスク T 細胞性腫瘍に対する同種移植後 valemestostat 維持療法

【研究の目的・背景】

《目的》化学療法で寛解に至らないような難治性の T 細胞性腫瘍の同種移植後に、より適切な原疾患治療を継続できる手段の確立を目的とします。

《研究に至る背景》臍帯血移植は難治性の血液疾患に対して完治を望める強力な治療法です。一方で移植前に非寛解だった T 細胞性腫瘍については未だ多くの方で再発が認められ、再発を予防する治療については未だ確立されていないのが現状です。

【研究期間】

2026年1月27日 ～ 2029年3月31日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院分院血液内科において研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

疾患の基本情報（性別、移植時年齢、診断日、移植時病期）、化学療法、移植情報（移植日、ドナー、前処置、GVHD 予防）、HHV6 脳症、GVHD を含む移植後合併症の有無、主たる死因、無増悪生存期間、全生存期間

【虎の門病院分院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：血液内科 ・ 和氣 敦

研究機関の長：分院長 竹内 靖博

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身あるいはご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身あるいはご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2026年3月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院分院 血液内科 ・ 景山 康生

電話 044-877-5111(代表)